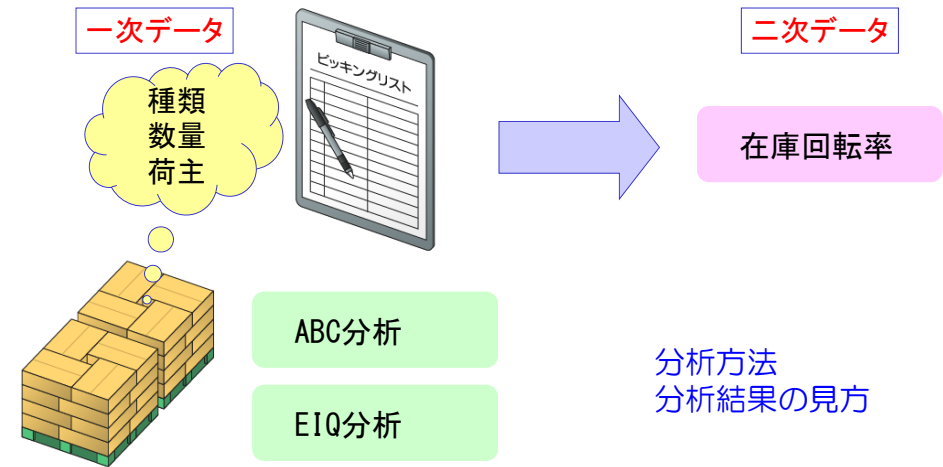


在庫マネジメントにおける 様々な分析方法

分析手法



2

ABC分析

製品の種類
(Item)

数量
(Quantity)

関係を分析し、

A,B,Cの三つの
グループに分類
する手法

項目	分類	備考
数量	三等分 A:80%, B:15%, C:5%	値の平方根を使用することもある。
	その他	
金額	三等分 A:80%, B:15%, C:5%	
	その他	
その他	その他	

パレートの法則 (Pareto 's law)
成果や結果の8割は、その要素や要因の2割に基づくという法則

ABC分析の手順

- 1 品目別の売上金額を算出する。
- 2 売上金額の大きい順に品目を並べ替える。
- 3 品目数累計百分率を求める。
- 4 売上金額累計百分率を求める。
- 5 売上金額の高い順に品目をA,B,Cの3群に区分する。
- 5 品目数と売上金額の百分率をもとに、パレート曲線を描く。

4

ABC分析による商品別の在庫管理の特徴

Aグループ

主力商品であり、管理上のポイントとしては、品切れを発生させないこと、すなわち欠品防止が重要である。これらの商品の品切れは、売上へ大きな影響をあたえる。

Bグループ

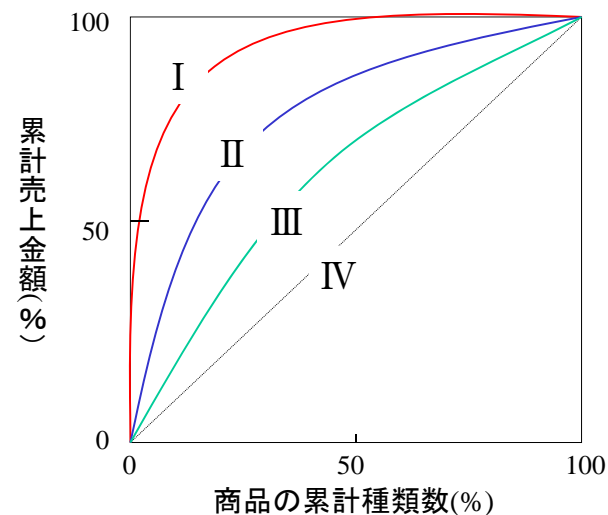
このグループの商品は、AからBへと落ちてきたものや、CからBへとあがってきたものなど、さまざまある。Bグループの商品は、その売上傾向を監視し、Aに準ずる管理をするか、Cに準ずる管理をするか、適切に見極める必要がある。

Cグループ

このグループは、BからCへと落ちてきた商品、もしくは市場に新しく登場した商品である。Cグループに落ちてきた商品は、発注時のロット数を最小にして、過剰在庫を持たないようにする。市場に新しく現れた商品については、一定期間、一定量の在庫を保持して市場の動向を観察する。

5

パレート曲線からみる取扱商品の相違



6

在庫回転率の定義

$$\text{在庫回転率 (1/年)} = \frac{\text{商品回転率 (1/年)} \times \text{売上高 (円/年)}}{\text{平均在庫量 (個)}} = \frac{\text{出荷量 (個/年)}}{\text{たな卸資産 (円)}}$$

注意: 経営分析では、金額で計算する。

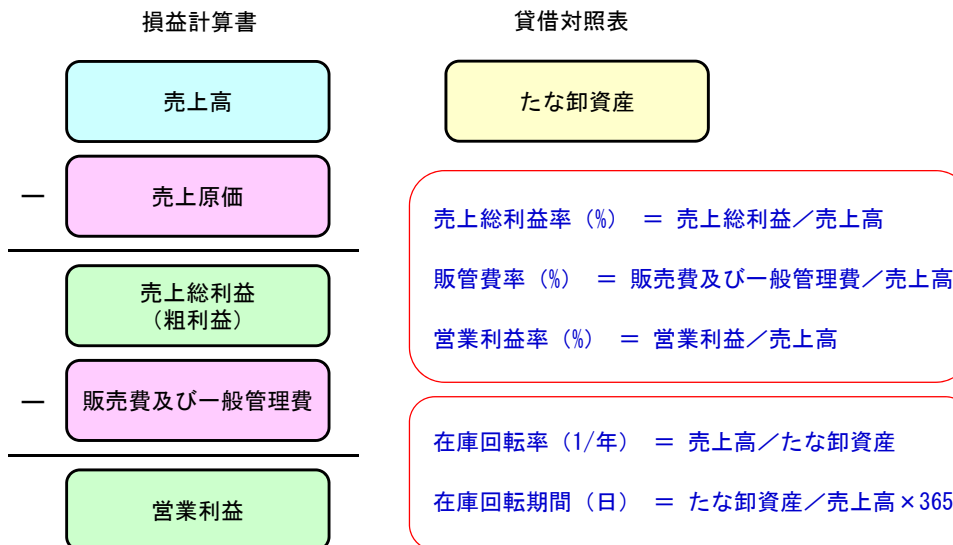
*: 厳密には、売上原価が望ましい。

表現例

回転率は、“●●(1/年)” or “●●(回/年)”である。
年間の回転率は、“●●” or “●●(回)”である。

7

財務データから見た経営の分析



8

評価指標

粗利益

$$\text{売上総利益} = \text{売上高} - \text{売上原価}$$

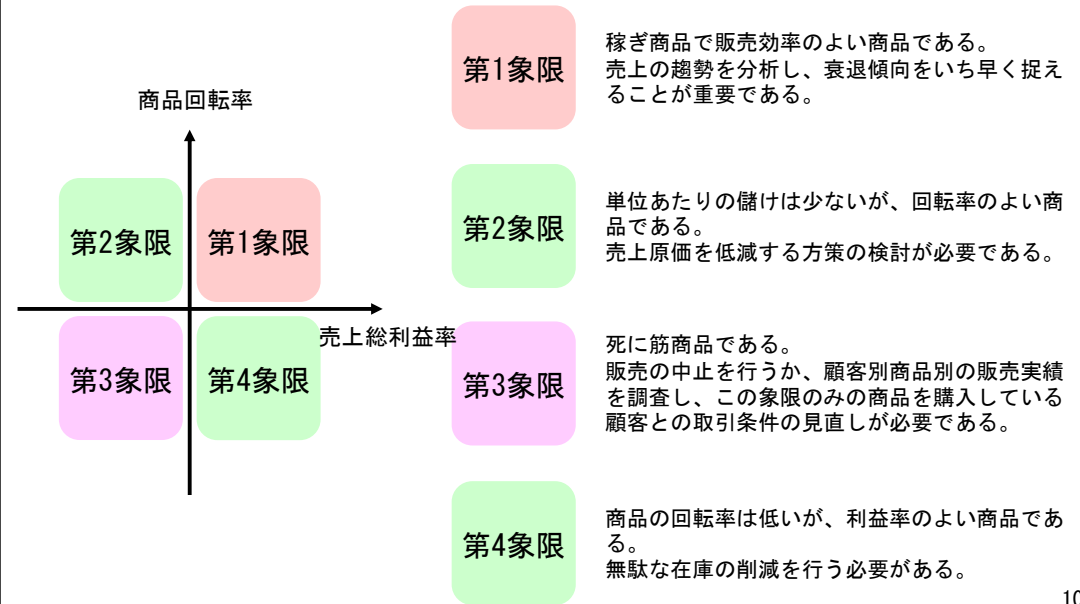
粗利益率

$$\text{売上総利益率} = \frac{\text{売上総利益}}{\text{売上高}}$$

$$\text{商品回転率} = \frac{\text{売上高}}{\text{たな卸資産}}$$

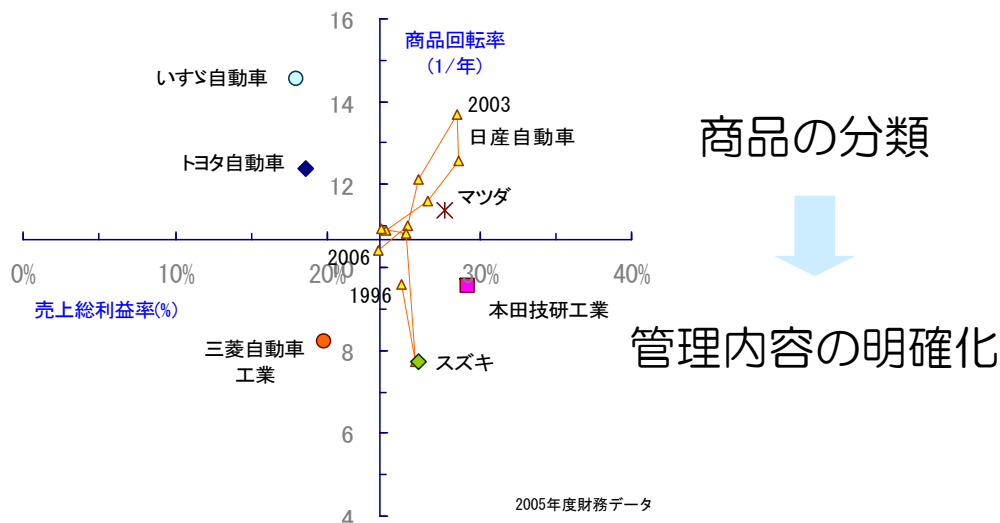
9

商品回転率と売上総利益率からみた管理ポイント



10

商品のポジショニング（相対と推移）



11

商品の廃棄・取扱の中止

～経営資源の有効活用～

練習問題

ABC分析を行ってみよう!

品目番号	単価(円)	数量(個)
A	10	20
B	10	100
C	10	50
D	10	30
E	10	800

累計%	品目数累計	品目数	品目番号	単価(円)	数量(個)	金額(円)	金額累計	累計%	ABC分析
	総品目数				合計金額				

